

テーマ：景気動向指数（2011年10月）の予測

発表日：2011年11月30日（水）

～C I一致指数は上昇に転じるも、均してみれば横ばい圏内の動き～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主席エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

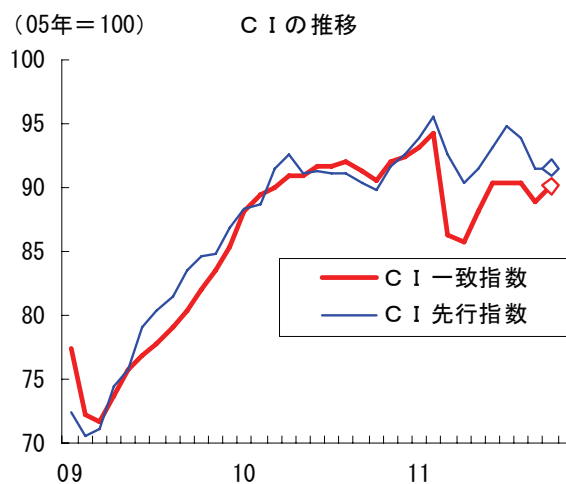
○ C I一致指数は上昇に転じるも、均してみれば横ばい圏内の動き

内閣府から12月7日に公表される2011年10月の景気動向指数では、C I一致指数は前月差+1.1ポイントと、4ヶ月ぶりの前月差プラスが予想される。もっとも、プラスとはいえ、9月の落ち込み分（前月差▲1.3ポイント）を取り戻しきれておらず、均してみれば横ばい圏内の動きを脱していない。①サプライチェーン復旧に伴う急回復局面の一巡、②海外経済の減速や消費の頭打ちなど需要面での伸び悩み等が背景にあるとみられる。先行きについても、海外経済の減速、円高の持続などを主因として輸出の足踏みが続くとみられることを考えると、C Iは横ばい圏内で一進一退の状況が続く可能性が高いだろう。なお、一致指数の内訳では、中小企業出荷指数がマイナス寄与となる一方、大口電力使用量や生産指数などが押し上げ要因になる見込みである。

また、C I先行指数は前月差+0.1ポイントと上昇が予想される。3ヵ月ぶりの上昇ではあるが、上昇幅は僅かであり、9月の落ち込み（同▲2.3ポイント）の後としては物足りない。内訳では、鉱工業生産財在庫率指数、中小企業売上げ見通しD.I.などがマイナス寄与、最終需要財在庫率指数、新規求人数などがプラス寄与となる見込みだ。

内閣府によるC I一致指数の基調判断は、前月と同じく「下げ止まり」になるとみられる。「改善」への上方修正、「悪化」への下方修正ともに基準を満たさないため、現状維持が予想される。

なお、先の話だが、仮に11月分のC I一致指数が前月差でマイナスになった場合には、「原則として3ヶ月以上連続して、3ヶ月後方移動平均が下降した場合」という「悪化」への下方修正基準を満たすとみられるため、基調判断は「悪化」に下方修正されることになるだろう。



(注)2011年10月は第一生命経済研究所による予測値

10月C I一致指数の前月差に対する個別系列の寄与度の予想

寄与度がプラスの系列	寄与度	寄与度がマイナスの系列	寄与度
大口電力使用量	0.34	中小企業出荷指数（製造業）	-0.18
生産指数（鉱工業）	0.24	商業販売額（卸売業）（前年同月比）	-0.02
商業販売額（小売業）（前年同月比）	0.22	鉱工業生産財出荷指数	-0.02
投資財出荷指数（除輸送機械）	0.21		
耐久消費財出荷指数	0.19		
所定外労働時間指数（調査産業計）	0.16		
有効求人倍率（除学卒）	0.06		
		営業利益（全産業）	-0.06

10月 C I 先行指数の前月 差に対する個別系列の 寄与度の 予想

寄与度がプラスの系列	寄与度	寄与度がマイナスの系列	寄与度
最終需要財在庫率指数(逆サイクル)	0. 48	鉱工業生産財在庫率指数 (逆サイクル)	-0. 53
新規求人数(除学卒)	0. 29	中小企業売上げ見通しD. I.	-0. 25
新設住宅着工床面積	0. 07	東証株価指数	-0. 06
長短金利差	0. 05	日経商品指数(4 2 種)	-0. 01
消費者態度指数	0. 03		
		実質機械受注(船舶・電力を除く民需)	-0. 03

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。